

かわさきの海で珍しい生きものが見つかりました

川崎港の東扇島周辺の海域ではこれまで定期的に生物調査を行ってきました。令和元年度から4年度まで調査した結果、37種類の魚類を確認し、そのうち初発見となったものが3種類でした。この3種類は東京湾の外洋が生息域である珍しい種でした。また、これまでわずかしか確認できなかったアマモを多数確認しました。近年、川崎の海は水環境の改善が進んでおり、様々な生き物が生息しています。

1 外洋の魚類を初確認

令和元年度から令和4年度までの調査で、主たる分布域が東京湾の外側（外洋）であるクツワハゼを初確認しました。また、東京湾より南方の暖かい海に生息するセグロチョウチョウウオ、カスミフグを初発見しました。これらは、近年の黒潮大蛇行により東京湾に黒潮が流れ込みやすくなっていることから、暖かい海に生息する個体が確認された可能性があります。



セグロチョウチョウウオ



カスミフグ



2 アマモを多数確認

アマモは「海のゆりかご」とよばれ、魚や貝などの産卵場や生育の場となるため、アマモ場が形成されることは生物多様性にとって大切なことです。

東扇島東公園の人工海浜（かわさきの浜）では、令和5年1月から4月まで毎月100株程度のアマモを確認しました。これだけの数の株が毎月連続で確認されたのは調査開始以来初めてとなります。水温や日射などの気象条件がアマモの生育に適していたこと、外部から種子が運ばれてきたことなどが要因と考えられます。



調査年度	最大株数	確認した月
令和2年	96	8月
令和3年	4	6月
令和4年	20	5月
令和5年	100	1～4月

確認したアマモの株数

【調査の概要】

川崎市では、これまで河川や干潟、海域の水質・水生生物の調査を行い、水辺に生息する生物の生息生育状況を把握してきました。調査結果は、市内のよりよい水環境を保全することを目指して普及啓発などに活用しております。

今回の魚類の調査は、①引き網によって捕獲する方法と、②潜水土が潜水して観察を行う方法で実施しました。令和元年度及び令和2年度は年1回、令和3年度及び令和4年度は月1回の調査を実施しました。その結果、37種類の魚類を確認しました。

発見された魚類の一覧表及び写真は、次の Web ページに掲載しています。

(川崎市 水辺の生きもの で検索)

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-6-0-0-0-0-0-0.html>

〔問合せ先〕

川崎市環境局環境総合研究所 中村
電話 044-276-9096
メール 30sotii@city.kawasaki.jp